



中国がわかるシリーズ 27 安史の乱（上）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

751 年、中央アジアのタラス河畔で、高句麗出身の将軍、高仙芝率いる唐軍がイスラーム軍に敗退しました。この戦闘は、世界史の上で重大な意味を持つことになりました。捕虜になった唐軍に紙漉き職人がいて、製紙法がイスラーム世界に伝わったからです。もっとも、この前後から、唐とイスラーム世界は接触を重ねており、そのプロセスの中で製紙法が伝わった、という説も有力です。因みに、麺もこの時、西方に伝わったのではないかと云われています。パスタの起源です。但し、パスタはイタリア人が洋上食として独自に開発したという説もイタリアでは有力なようです。

753 年、唐の高僧、鑑真が 14 人の僧と 3 人の尼僧など多くの随員を連れて、日本に辿り着きました。これによって、日本の仏教は、大きく進展することになりました。木彫仏の興隆や経典の校訂などが、その典型例だとされています。

755 年、燕を根拠地とするソグド系の節度使、安祿山(ブハラ出身の光、という意味)が反乱を起こして、大唐世界帝国は大きく揺らぐことになりました(燕は、今日の北京の前身です)。偶然の一致かもしれませんが、ほぼ同じ頃に成立した東西の大帝国(唐とウマイヤ朝)は、ほぼ同じ頃に、大反乱(アッバース革命、安史の乱)に見舞われたのです。反乱主体(ホラーサーン軍、ソグド軍閥)の近接性を考えますと、この両者が連動していなかったという保証はどこにもありません。また、安史の乱は、早すぎたキタイ帝国(中央アジア遊牧民の帝国)としての側面を持つとの指摘もなされています。

なお、玄宗の時代は「盛唐」と呼ばれていますが、詩聖、杜甫と詩仙、李白の 2 大詩人を生んだことでも知られています(絵画にも秀でた詩仏、王維もいました)。唐の時代、詩は科擧の正式な受験科目であったことが、唐詩隆盛の基礎にあると考えられています。また、画聖、呉道玄は、玄宗に愛されました。インドで起こった密教も、中国には、玄宗期に伝来したのです。インド人の善無畏は、陸路、唐に入って大日経を訳出し、インド人の不空三蔵は、海路、入唐して金剛頂経を漢訳し、五台山文殊信仰と密教を結び付けて唐室の帰依を受け、仏教界に君臨しました。また、この時代には、唐三彩(明器＝墓の副葬品、が中心)と呼ばれる優れた陶器が数多く創られました。まさに、盛唐の名に相応しい文化の爛熟期でした。